

Minami Kyushu University Syllabus

シラバス年度	2025年度	開講キャンパス		宮崎キャンパス		開設学科		管理栄養学科		
科目名称	栄養教育各論Ⅰ						授業形態		講義	
科目コード	302900	単位数	2単位	配当学年	2	実務経験教員		○	アクティブ ラーニング	○
担当教員名	原口 直樹								ICT活 用	○
授業概要	本教科では、対象の健康や栄養に関する課題解決のための栄養教育マネジメントを担えるよう、栄養教育の基礎となる理論と技術・手法について修得する。【態度・志向性の育成】 栄養教育は、科学的根拠に基づき、人の生涯を通じた健康の維持増進及び疾病予防をめざし、根拠に基づいた対象の行動変容支援と健康的な社会・生活環境の創造につながるものであることが求められている。そのため、管理栄養士はその中心的担い手として期待されている。 授業期間中において学ぶことはできても、身につけることができない資質・能力については、3年次以降の関連する授業科目や諸活動等を通して学ぶ。【生涯学習力の育成】									
関連する科目	栄養教育総論を事前に、履修後は、栄養教育各論Ⅱを履修することが望ましい。									
授業の進め方 と方法	授業内容の復習と確認のために、毎回「確認テスト」を実施する。 授業は主に講義方式で行うが、課題を与えてディスカッションをしたり、2人組でロールプレイをするなど、アクティブラーニング型の授業を展開する。また理解を深めるため、スライドのほか、DVD教材等の活用で学びを深めるとともに、「確認テスト」を通して課題に対する自らの考えをレポートで表現する。【汎用的技能の育成】									
授業計画 【第1回】	オリエンテーション 「栄養教育の目的と栄養教育マネジメントの必要性」									
授業計画 【第2回】	「栄養教育マネジメントサイクル」 対象者の行動変容を適切に、また効果的に進めるためのマネジメントについて理解する。									
授業計画 【第3回】	「栄養教育のためのアセスメント（意義・目的、アセスメントの種類）」 アセスメントを全人的に行うことの重要性とその方法について学ぶ。 実践例を基に理解する。									
授業計画 【第4回】	「栄養教育のためのアセスメント（情報収集の方法）」 アセスメントを全人的に行うことの重要性とその方法について学ぶ。 実践例を基に理解する。									
授業計画 【第5回】	「栄養教育計画（アセスメント結果と栄養教育）」 対象者の実態に基づいた栄養教育計画の作成について理解する。									
授業計画 【第6回】	「栄養教育計画（学習目標の設定）」 対象者の実態に基づいた栄養教育計画の作成について理解する。									
授業計画 【第7回】	「栄養教育計画（カリキュラム立案と指導計画）」 対象者の実態に基づいた栄養教育計画の作成について理解する。									
授業計画 【第8回】	「栄養教育の方法（学習形態の選択と目標）」									
授業計画 【第9回】	「栄養教育の方法（栄養教育における教材・媒体の意義）」									
授業計画 【第10回】	「栄養教育の方法（栄養教育における教材・媒体の種類・選択）」									

授業計画 【第11回】	「栄養教育の方法（栄養カウンセリングの意義、カウンセリングマインド）」 個別やグループ対象に行われる栄養カウンセリングを体系的に学ぶ。 実践例を基に理解する。
授業計画 【第12回】	「栄養教育の方法（栄養カウンセリングの基本技法、事例）」 個別やグループ対象に行われる栄養カウンセリングを体系的に学ぶ。 実践例を基に理解する。
授業計画 【第13回】	「栄養教育の実施（栄養教育の体制づくり、栄養教育の実施方法）」
授業計画 【第14回】	「栄養教育の評価（栄養教育マネジメント評価、評価デザイン）」
授業計画 【第15回】	「栄養教育の評価（結果のフィードバック、総合評価）」
授業の到達目標	栄養教育マネジメントの意義と目的が理解できる【知識・理解の育成】。 栄養教育マネジメントサイクル（アセスメントプラン→実施→評価→フィードバック）とその実施方法について体系的に理解できる。 【汎用的技能の育成】【態度・志向性の育成】
学位授与の方針 (DP)との関連	1. 知識・理解を応用し活用する能力-(1)／1. 知識・理解を応用し活用する能力-(2)／2. 汎用的技能を応用し活用する能力-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(1)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(3)／3. 人間力、社会性、国際性の涵養-(4)
授業時間外学習【予習】	次回の授業範囲について予習する（1時間）。 新聞・テレビ・雑誌・インターネット等に掲載される情報に関心を持ち、それを5W1H「いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、なにを(What)、なぜ(Why)、どのように(How)」の6つの要素を中心にまとめて把握し、それに対する自分なりの意見を考え、文章にする習慣を身につける（1時間）。
授業時間外学習【復習】	人の行動の特性について行動科学の学びの中から得た知識や認識を復習すること（1時間）。 新聞・テレビ・雑誌・インターネット等に掲載される情報に関心を持ち、それを5W1H「いつ(When)、どこで(Where)、だれが(Who)、なにを(What)、なぜ(Why)、どのように(How)」の6つの要素を中心にまとめて把握し、それに対する自分なりの意見を考え、文章にする習慣を身につける（1時間）。
課題に対する フィードバック	確認テスト、レポート、最終試験は評価後、返却及び解説をする。
評価方法・基準	以上の結果を総合して評価する。 1) 期間中に2回の小テストを行う。各30点 2) 授業への取り組み状況（授業態度、課題提出状況など）30点 3) 課題の提出状況 10点
テキスト	『管理栄養士講座 栄養教育論 第3版』中村丁次・外山健二・笠原賀子 編著 健帛社（4180円、「総論」共通） 『宮崎県給食施設栄養管理の手引き』宮崎県福祉保健部・宮崎市健康管理部・宮崎県栄養士会（2500円）
参考書	『改訂マスター栄養教育論』逸見幾代・佐藤香苗 編著 健帛社 健康・栄養科学シリーズ『栄養教育論』丸山千寿子・足達淑子・武見ゆかり 編集 南江堂 『行動変容のための面接レッスン 行動カウンセリングの実践』足達淑子著 医歯薬出版 『ライフスタイル療法! 第4版 生活習慣改善のための行動療法』足達淑子著 医歯薬出版
備考	管理栄養士としての病院や学校での勤務経験、また行政・企業との共同研究経験を活かし、実践的な栄養教育に必要な知識と技術について講義を行う。 各対象者が直面する課題やその解決策について、栄養教育論の視点から、理論と実例を交えた実践的な授業を展開する。